

Ⅲ 事例研究のまとめ

2. 地域で子どもを育てる住民の意識について

(2) 地域の自然や施設を生かした子どもの主体性を支援する取り組み

【 事例 5 の特色 】

烏山町「からすやま風の顔らんど」では、「子どもたちが、健やかに育つことができる環境づくり」を目指し、子どもたちの自由な発想のもとでの「学習」「体験」「活動」を支援しながら、「自ら考え、行動できる主体性・自主性をもった子どもの育成」を図っている。事業として、町の豊かな自然を生かし、子どもたちが元気にのびのびと遊べる野外体験16コースを利用し、チャレンジハイキング・芋掘りと芋煮会・那珂川フェスティバル時の手作りイカダレース等を実施している。また、これらの事業を通して、風の顔らんどを運営する「こども」、推進する「おとな」を地域に定着させていくためのリーダーの発掘・育成を図っている。

《事例 5》

事業名（市町村）	からすやま風の顔らんど（烏山町）
事業主体（実施機関）	からすやま風の顔らんど推進委員会
【事業（施設）の概要及び特色】 1. 目的 「子どもたちが、健やかに育つことができる環境づくり」を目的とし、自ら考え、行動できるといった主体性・自発性をもった子どもを育成していくため、子ども達の自由な発想での「学習」・「体験」・「活動」を支援する。また、風の顔らんどが地域に定着させていくために各種事業を通して、リーダーの発掘、育成を図る。 2. 概要及び特色 「子どもたちが、健やかに育つことができる環境づくり」を目指して、厚生労働省（当時厚生省）において、平成4年8月にウェルカムベビーキャンペーン実行委員会が設立され、「こどもがまんなか」をスローガンに全国規模で様々なキャンペーン活動が展開されてきました。このキャンペーンの趣旨に賛同した人気のアーティスト7名の協力によって作られたキャンペーンソング「僕らが生まれたあの日のように」のレコード・CDの売上げの一部や、著作権収入、一般企業や団体からの寄附金約一億円で、「風の顔基金」が設けられました。 第1号として、平成6年5月愛媛県今治市沖にある小島（おしま）に、第2号として、平成7年4月北海道風連町に、第3号として、平成7年7月栃木県烏山町に「からすやま風の顔らんど」としてオープンしました。 烏山町の豊かな自然を生かし、こどもたちが元気に、のびのびと遊べる「らんど」を作り上げていくことを目的に、野外体験活動場16コースを設けました。また、自然体験、作る喜び、文化体験活動等を実施してきました。具体的にはチャレンジハイキング、芋掘りと芋煮会、クリスマスコンサート、那珂川フェスティバル時の手作りイカダレース、夏のキャンプ、ちびっ子サッカー大会、かるたとり大会、学校との総合的な学習の時間における連携事業（今年度は東小学校における、国見の棚田での稲作体験事業）、3らんど交流会、等々を実施してきました。 3. 取り組みによる効果 ・ちびっ子サッカー大会においては、地域の指導者主導型（実行委員会）として運営されるようになってきた。 ・かるたとり大会においては、中・高校生ボランティアが運営を担い、ボランティアとして主体的な活	

動をする場となっている。

- ・学校との総合的な学習の時間においての連携事業（東小学校）により、米作りの一連を学ぶことができ、そこから子どもたちの「自発的な学び」の関心や意欲を引き出すことができた。
- ・活動終了後、活動を支えるボランティアスタッフも組織していこうという検討が開始されている。

4. 今後の課題

- ・子どもたちが休みの日に常時集まり、活動をするための拠点施設の整備。
- ・地域で子どもを育てる意識の高揚をさらに図るとともに、ボランティアの養成・育成に努める。

参考 《 からすやま風の顔らんど 野外体験16コースいらすとまっぷ 》

